



# 「台湾」で生きる



高雄日本人学校 中山 南斗

## 【現地校の中にある学校】

本校は世界で唯一の「現地校の中にある日本人学校」です。

中正國小（中正）という現地校の一棟を間借りして生活しています。中正は3000人を超す大規模校。対して本校は約90名、単級9学級の小規模校です。二つの学校がお互いに尊重し合いながら生活しています。

朝、中正と本校の子どもたちが同じ時間に登校してきます。正門に立つと、「おはよう」の声と、中国語の「早（ザオ）」の声が入り交じります。トコトコと歩み寄ってきた中正の子どもが「おはようございます」と丁寧にお辞儀をします。「中山老師（ラオスー）～！」研修の一環で教えた日本語クラスの子もたちが、名前を呼んでくれました。中正の先生も手を振りながら「おはよう～！」と声をかけてくれます。あいさつは国境を越えるのだと改めて感じます。

## 【新型コロナウイルスの影響で】

「世界一安全」な場所と称された台湾でも、今年度5月中感染が発見されました。本校でも5月19日から臨時休業が二ヶ月間続くことになりました。幸いにも昨年度のうちに一人一台の情報端末の購入が済んでいました。日本語に対応した専門業者がいないため、セキュリティやオンライン授業用のソフトウェアなどの設定は、教職員が休日返上で行って、5月初旬に作業を終えたばかり。まさに「ぎりぎりセーフ」のタイミングでした。

休校の翌日から双方向型のオンライン授業が始まりました。「学びを止めない」が合い言葉ですが、つついよりよい学習ができないかと思うのが教師の性。オンライン会議の機能を用いた少人数の話し合い活動、子どもたちだけでなく家族のストレス解消も大切と、小さな兄弟や保護者を巻きこんだ家族体操。いわゆる「5教科」だけでなく、図工・美術や音楽、中国語の授業も子どもたちの楽しみの場となりました。

縦割り活動もできないかと思案していただき、小学部1年生と6年生のゲーム会が企画され、「連想ゲーム」「しりとり」で盛り上がりました。転出する生徒のために、オンラインお別れ会を子どもたちが企画しました。

確かにできないこともありますが、「できる」ことを増やしてきました。

8月25日、新規感染者が「0」となりました。「+0」の発音である「加零（ジャーリン）」が台湾女性の名前の発音に似ているとして「加零回来（ジャーリンさんが帰ってきた!）」と台湾が歡喜しました。子どもたちの登校も許され、学校に子どもたちの笑顔が戻ってきました。



中正國小の入学式の朝

台湾は9月が年度初め。入学を祝う門には日本語が使われています。



通り沿いの果物屋には季節の南国フルーツが並びます。



オンライン授業の様子

書画カメラで手元のノートを映しながら双方向型の授業を進めていきました。



オンライン体育の様子

画面越しですが汗かくで活動をしています。